

令和5年5月29日

マダニが媒介する感染症に注意しましょう！

マダニが媒介する感染症には重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱等があります。これらの疾患は、病原体を保有するマダニに咬まれることによって起こる感染症であり、マダニの活動が活発となる春から秋にかけて患者が増加する傾向にあります。

マダニは、シカやイノシシなどの野生動物が生息する環境のほか、民家の裏山や裏庭、畑などにも生息していることから、屋外でのキャンプやハイキング、農作業や草刈り、山中での作業（山菜採りや狩猟等）を行う場合には、マダニに咬まれないよう予防策を徹底することが重要です。

これから夏場を迎えると、屋外で活動する機会が増えることから、マダニに咬まれないための予防策の周知について、御協力をお願いします。

1. 県内の発生状況

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年※
SFTS (うち死亡数)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	4 (2)	2 (1)
日本紅斑熱 (うち死亡数)	9 (0)	10 (2)	9 (0)	16 (1)	15 (0)	1 (1)

※2023年は20週（R5.5.15～5.21）までの報告分

2. 感染予防策等

マダニに咬まれないことが重要です。

- ◆ 森林や草むらなど、マダニの生息する場所に入る際は、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、できるだけ肌を露出しないようにしましょう。また、防虫スプレー（ディート含有）を肌の出る部分や襟、袖、裾などに噴霧することも効果的です。
- ◆ 屋外活動後はマダニに刺されていないか確認しましょう。吸血中のマダニに気がついた場合は、無理に引き抜いたりせず、医療機関で処置してもらいましょう。
- ◆ 飼い犬等にマダニが付着する可能性があるため、散歩から帰ったらブラッシングしてマダニがついていないか確認し、犬小屋等はよく掃除をして常に清潔に保ちましょう。
- ◆ マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合には、速やかに医療機関を受診してください。

3. 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

【潜伏期間】 マダニに咬まれてから6日～2週間後に発症

【症状】 発熱、嘔吐、下痢、腹痛など

4. 日本紅斑熱について

【潜伏期間】 マダニに咬まれてから2～8日後に発症

【症状】 頭痛、発熱、倦怠感など

【参考ホームページ】

- 1 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生状況（愛媛県感染症情報センター）
<https://www.pref.ehime.jp/h25115/kanjyo/topics/sfts/index.html>
- 2 日本紅斑熱の発生状況（愛媛県感染症情報センター）
<https://www.pref.ehime.jp/h25115/kanjyo/topics/nihonkouhan/index.html>
- 2 ダニ媒介感染症（厚生労働省）
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>